

提出日 平成 25 年 3 月 27 日

平成 24 年度 総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)

海外共同・○共同研究・個人研究・出版助成

研究代表者 (所属・職名・氏名) 看護学科・教授・加藤令子

研究課題名

小児看護学演習におけるシミュレーション教育の本学導入の検討
問題基盤型学習 (PBL) を用いた授業と連動した演習カリキュラムの開発

研究分担者 (共同研究者)

西田 志穂

研究期間

平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

研究を実施することになった経緯 (海外共同の場合のみ記入)

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]

加藤 令子 看護学科 研究代表者
文献検討
看護学におけるシミュレーション教育の現状についての情報収集
海外研修の企画・運営・報告
前期に施行した問題基盤型学習 (PBL) で展開した講義内容の分析・評価
カリキュラム案の作成・評価

西田 志穂 看護学科 文献検討
看護学におけるシミュレーション教育の現状についての情報収集
前期に施行した問題基盤型学習 (PBL) で展開した講義内容の分析・評価
カリキュラム案の作成・評価

研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書

- ・英国の Glamorgan Clinical Simulation Center での看護シミュレーション教育
小児看護 へるす出版

研究実績の概要

1) 文献により、海外および国内での看護基礎教育におけるシミュレーション教育の実際や課題等を検討した。

米国では、シミュレーション教育が看護学教育の中で盛んに行われており、シミュレーションセンターをもつ大学が多くある。センターでは、高機能シミュレータを用いたアセスメント能力の育成、シナリオを使用した臨床判断能力や看護実践能力の育成が行われており、看護基礎教育の中でのシミュレーション教育が重要な位置づけとなっている。わが国では、看護基礎教育の中でシミュレーション教育は以前から行われていたが、モデル人形を活用したタスク教育が大部分を占めていた。欧米の様なシナリオに沿って高機能シミュレータを用いるシミュレーション教育は、数年前に開始されたばかりであるが、今後、看護基礎教育における重要な教育方法として発展する可能性は高い。シミュレーション教育は、シミュレータの限界を理解した上での活用だけでなく、シナリオの作成と評価基準の設定が重要となるため、これらを担う人材の育成が今後の課題である。

2) 英国の Wales にある Glamorgan Clinical Simulation Center の視察、フィンランドの Seinäjoki University of Applied Science ,School of Health Care and Social Work の看護基礎教育におけるシミュレーション教育の実際を調査し、本学の小児看護学教育におけるシミュレーション教育の今後の方向性への知見を得た。

Glamorgan Clinical Simulation Center は、大規模で様々な機能を備えたシミュレーションセンターである。患者プログラムが可能な 21 体のシミュレータがあり、学生は実践したシナリオを自宅のコンピュータから確認できるだけでなく、インストラクターからのコメントと画像も、約 3 時間後には確認可能である。

小児看護領域は発達段階が異なるシミュレータが 4 体あり、発達段階に応じた看護実践能力を獲得するためのシナリオが準備されている。センター内には、病院とほぼ同様の造りの部屋があり、使用されている機材も全て病院内と同様の物であるため、学生は現実の臨床場面に近い状況での学習が可能である。

Seinäjoki University of Applied Science ,School of Health Care and Social Work の小児看護学演習室は、ひとつの部屋に、講義用の机・椅子と演習用には病院と同様の機材が配置され、講義と演習が連動できるようになっている。高機能シミュレータはないが、モデル人形を活用して病院に近い環境を設定し、実践力の獲得ができるようになっている。さらに、演習室に設置されたコンピュータを使い、学生の学習状況に応じて学べる工夫がなされている。高機能シミュレータを活用した演習実施のため、全領域を対象としたシミュレーションルーム開設の準備がすすめられていた。

3) 問題基盤型学習 (PBL) で展開した授業と連動し、シミュレーション教育を導入した演習カリキュラムの開発と評価を行った。

学生ができるだけ実際の子どもの状況をイメージし、臨床判断能力が獲得できることを目指して、PBL の授業と同様のシナリオを活用し、モデル人形を用いたシミュレーション教育カリキュラムを開発した。

子どもの状態が異なる 3 場面のシナリオは、授業時のものに詳細な設定を加え、さらに学生が獲得すべき小児看護技術を最適な場面に配置することにより、よりシミュレーション教育に適した状況を設定して演習を展開した。これにより、子どもの状況に応じた判断と援助を導くための思考づくりと、適切なケア提供に向けた技術獲得が効果的に行える演習の展開が可能となった。

本研究協力の同意を得た学生の課題学習内容の分析の結果、開発したカリキュラムは、学生の思考プロセスを臨床場面に近づけるという効果が期待できた。